

インターナショナル・アラート

紛争転換リソースパック

平成 14 年 3 月
財団法人日本国際フォーラム

監訳
阿曾村邦昭
上杉 勇司

まえがき

冷戦時代は抑止が安全保障のキーワードであったが、21世紀は、防衛（国家安全保障）と予防（人間安全保障）がキーワードになるであろう。その場合、防衛は国家中心の仕事であるが、予防はNGO中心の仕事となる。

紛争予防分野におけるNGOの役割の重要性が今後益々高まる中で、今般作成した本書『紛争転換リソースパック』は、財団法人日本国際フォーラムが世界的な紛争予防NGOであるインターナショナル・アラート（International Alert）からその出版する紛争予防実践ノウハウ集”International Alert Resource Pack for Conflict Transformation”の翻訳権を獲得し、日本国際フォーラムの附属機関である日本予防外交センター（2002年2月28日より特定非営利活動法人日本紛争予防センターとして独立）に翻訳作業を担当させて作成したものである。

『紛争転換リソースパック』という定評のある紛争予防実践ノウハウ集を日本語訳で提供できることは、今後日本において紛争予防分野の実務家を育成していく上で、大きな財産となるであろう。

なお、本事業には外務省から資金的助成を頂いた。この場を借りて御礼申しあげたい。

2002年3月

財団法人日本国際フォーラム

理事長 伊藤 憲一

インターナショナル・アラート

紛争転換リソースパック

目 次

序章 訳者序文	1
第1章 インターナショナル・アラートの紛争転換アプローチ ...	3
1. はじめに	4
2. 紛争転換と持続可能な平和	4
3. 和平プロセスへの民衆の参加	5
4. トレーニングに紛争転換能力育成アプローチを使う	6
5. 本書について	8
6. フィードバックと今後の展望	10
7. 参考文献および謝辞	11
第2章 紛争についての考察	12
1. はじめに	13
2. 紛争、暴力そして平和	13
3. 紛争転換	41
4. 文化	57
5. 結論	61
6. 推薦図書	62
7. 情報源	65
8. 参考文献	65
第3章 紛争転換能力育成ワークショップ-理論編	68
1. はじめに	69
2. 紛争	70
3. 紛争分析	79

4. 紛争転換	97
5. コミュニケーション	112
6. 交渉における紛争当事者	126
7. 第三者の参加	141
8. 合意後の和平プロセスの維持	155
9. 結論	162
10. 出典	162

第4章 紛争転換能力育成ワークショップの手順と立案164

1. はじめに	165
2. 紛争転換能力育成ワークショップの目的	165
3. 紛争転換能力育成ワークショップの類型	167
4. ワークショップの手順	172
5. 紛争転換能力育成ワークショップを立案する	204
6. 出典	224

第5章 注釈付き参考文献226

1. 紛争解決トレーニング・マニュアル	227
2. 紛争と紛争解決に関する文献および論文	232
3. 学術誌、ニュースレター	257
4. インターナショナル・アラート出版物とトレーニング報告書	260

序章 訳者序文

紛争予防や予防外交というテーマはともすれば、国際情勢に関心のある一部の人々に知られるのみで、大多数の一般市民には縁遠い概念になりがちである。また、民族紛争や宗教紛争という事象に関心があり、紛争予防あるいは予防外交の重要性についても理解がある人でも、実際に紛争を予防、緩和、解決、再発予防するための具体的な方策やその実施の仕方・手順にまで精通していることは稀である。一つには日本において民族紛争や宗教紛争といった問題に身近に直面している者が少ないということがあるが、もう一つには紛争問題に関する日本における専門家というと、国際関係論の文脈からの理論分析等学術的アプローチを採ることが多く、実務的アプローチに長けた専門家は圧倒的に少なく、これらの要因が影響して紛争予防あるいは予防外交に実務的に対応していくリソースに乏しいという現状がある。このような現状を改善するべく、当センターのような紛争予防あるいは予防外交に実務的に対応している機関が広報・啓蒙活動を展開し、とりわけ実践ノウハウを得られるような啓蒙活動を行うことが求められている。

紛争予防あるいは予防外交の実践ノウハウ（例えば紛争地における紛争予防ワークショップの運営手法など）は残念ながら日本では開発途上であり、欧米の NGO や大学、研究機関が経験と理論的研究の双方において勝っている。そこで、今後日本が独自のよりよい実践ノウハウを蓄積するためには、まずは欧米の先行研究を学ぶことが肝要であるが、“International Alert Resource Pack for Conflict Transformation”（以下“RP”）は紛争予防あるいは予防外交の分野を主導している国際 NGO のひとつであるインターナショナル・アラート（International Alert、以下“IA”、本部ロンドン）が出版している定評のある実践ノウハウ集であり、今般の同書の日本語版『紛争転換リソースパック』（以下『リソースパック』）は紛争予防あるいは予防外交に関心を持つ層の今後の実践的活動のための指針となるであろう（ちなみに、RP は英語（原文）以外にフランス語、ロシア語、スペイン語、インドネシア語版が既に出版されている）。

日本紛争予防センター（以下“JCCP”、旧称日本予防外交センター、本部東京）はこれまで IA と様々な局面で協力関係を築き上げてきた。この度『リソースパック』を公にするに当たり、これまでの道のりを振り返ってみると様々な縁が重なっている

ことを感じる。ここで簡単に触れてみたい。

JCCP は設立以来、IA とは折に触れて意見交換、シンポジウム実施への協力などを行い、この過程で私は IA の事務局長である Kevin Clements 氏とは何度となくお目にかかり、お互いに「話の通ずる」間柄となった。今回の「RP を日本語翻訳してはどうか」という話は、私共 JCCP が毎年開校している予防外交市民大学院セミナーの卒業生である上杉勇司氏（共同監訳者、財団法人南西地域産業活性化センター沖縄平和協力センター設立準備室長）が Clements 氏の教え子であったという縁で舞い込んできた。RP の内容面から日本語訳を世に出す意義があると私は考え、Clements 氏もそれに欣然賛同してくれたのである。更に、先に触れた予防外交市民大学院セミナーの第 2 期卒業生がその意義を認め、翻訳作業に全面的に参加することとなった。こうして、上杉氏を始め、窪田悠一（日本大学大学院修士課程）、小林安吏（JCCP 事務局員）、世古将人（笹川平和財団研究員）、瀬谷ルミ子（国連シエラレオネ派遣団武装解除・動員解除・再統合部）、芹沢智一（JCCP 事務局員）、中島郁（東京大学大学院修士課程）、村上裕公（国際基督教大学大学院行政学研究科博士後期課程）、キャメロン・ノーブル（JCCP 事務局主任）の各氏は仕事や研究の合間を縫って勉強会を行い、翻訳作業に取り組んだ。上杉氏と私は最後の監訳作業として翻訳の確認と修正、用語や文体の調整や統一を行い、専門用語などの解説を要する部分には脚注を施した。また、外務省からは資金助成を頂いた。ここに全関係者への謝辞を述べさせていただきたい。なお翻訳の分担は以下の通りである。第 1 章（上杉）、第 2 章（村上・上杉）、第 3 章（窪田・瀬谷・世古）、第 4 章（小林・芹沢・上杉）、第 5 章（中島）。

2002 年 3 月

訳者を代表して

日本紛争予防センター

所長 阿曾村邦昭